



# 麻生まちづくり市民の会

麻生まちづくり市民の会広報紙 第32号 発行日2009年3月1日  
発行責任者：(会長)碓井勝次 編集：広報部 連絡・問合せ先：事務局 地域振興課 965-5116

## ～「市民の会」って“なに”やってるの?～

### 行政と共に歩んできたまちづくり

～9年間(平成12年～20年)の経緯～

副会長 曾我 恵美子



市民が行政と協働して住み良いまちづくりを進めるために設置された「麻生まちづくり会議」が「麻生まちづくり市民の会」に引き継がれ、9年が経ちました。この「麻生まちづくり市民の会」は一定の役目を果たしたとの行政の判断のもとに、これまで試行錯誤してきた“中間支援機能”と“市民活動の拠点(場所)としての機能”は「麻生市民交流館やまゆり」に移すこととなり、「第1期市民の会」は新たな課題に向けて再出発することになりました。

ここで9年間の参加者延べ人数849名(男性565名、女性284名)がどのような課題に取り組んできたのか、その軌跡を振り返りたいと思います。(注:役職は当時)

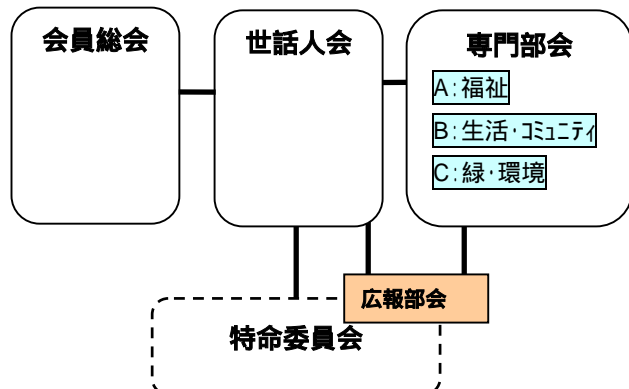
## ～“なに”から始める?～

### 【1】 麻生まちづくり会議

(平成12年2月設立～平成15年3月)

代表世話人：壁 義彰氏(麻生社会福祉協議会会長) 副代表世話人：中島豪一氏(麻生区町会連合会会長) 副代表世話人：杉本長治氏(麻生区文化協会会長)が就任し、団体・企業の推薦と公募126名でスタートしました。

組織



活動

#### (A) 福祉専門部会

・“共助”を先取りして、さまざまな取り組みを行いました。

a) みんなにやさしいバリアフリー推進グループ

区内のバリアフリー調査を行い『わたしのお医者さん(車イスで行ける医療機関)』を作成 他

b) 福祉サービスの充実グループ

“共助”を推進する先進的な取り組みを実施

\*ひとり暮らし高齢者の安否確認を兼ねて麻生郵便局と協議し、集荷サービスを実施

\*元気な高齢者の介護予防を目的に「健康・いきがい・仲間づくり」(居場所づくり)として高齢者ファッションショー(麻生ハートフルエイジファッションショー)を実施 他

- c) ふれあい活動の促進グループ  
コミュニティを醸成する方策の研究
  - \* ふれあい散歩の会立ち上げ
  - \* エコマネーの研究 他
- d) 居場所づくりグループ  
少子高齢化社会や団塊の世代のための取り組み
  - \* 青少年児童音楽フェスティバルを実行委員会メンバーとして実行
  - \* 定年退職者の居場所づくりシンポジウムを開催 他

### (B) 生活・コミュニティ専門部会

- ・芽生えつつあった市民活動のための方策を検討し、先頭に立って活動を行いました。
  - \* まちづくりセンターの検討（区民活動支援ルームにつながる）
  - \* 放置自転車と駐輪場の調査を行い「駐輪マップ」を作成 他

### (C) 緑・環境専門部会

- ・市街化の進展により減少しつつある麻生の緑の実体を把握し、市民が主体となった緑の保全、活用方策を検討しました。
  - a) 緑小委員会  
コミュニティの視点から取り組み、緑の保全・活用方策のノウハウを蓄積
    - \* 籠口ノ池公園をモデルとし緑陰型公園の維持・管理を地元の方と検討
    - \* 麻生ビューポイント 10 の追跡調査 他
  - b) 環境小委員会  
現況に基づき市民自らが参加する取り組み
    - \* ゴみの減量と資源化の分別収集方策の検討 他
  - c) 交通小委員会  
コミュニティの視点から麻生の交通問題を取り組み
    - \* 交通渋滞の解消について
    - \* コミュニティバス運行の提案 他

#### < 区民の集い >

- ・区民の声を反映し、めざすべき方向を共有しながら活動を行うため、まちづくり会議の活動テーマの中から選んで、毎年 1 回開催しま

した。

- 第 1 回 平成 13 年 3 月  
「みんなで描こう麻生の未来図」
- 第 2 回 平成 14 年 3 月  
「公園から考える地域コミュニティ」
- 第 3 回 平成 15 年 11 月  
「ポスト自動車型社会：都市はどこまで自動車を減らせるか」

#### < 会員の集い >

まちづくり会議は、多様な活動や団体等に所属する区民で構成されています。そのため、会員が共通の目標を持ち楽しく活動を行う目的で、会員相互の交流を図るための集いを開催しました。（平成 13 年 12 月）「コミュニティバスの導入」「区民活動支援ルーム」の 2 つの分科会で意見交換しました。

#### < その他の活動 >

- 特命委員会
  - ・まちづくり会議のあり方や運営のための重要事項を検討、実行するために、そのつど委員会を設置し進めました。
  - \* 検討委員会 13 年 6 月～14 年 1 月
  - \* 枠組み検討委員会 14 年 5 月～11 月
  - \* 設立準備委員会 14 年 12 月～15 年 5 月
  - \* 区民の集い実行委員会
    - （第 1 回）12 年 10 月～13 年 3 月
    - （第 2 回）13 年 12 月～14 年 3 月
    - （第 3 回）14 年 7 月～14 年 12 月
  - \* 会員の集い実行委員会
    - 12 年 10 月～13 年 3 月
  - \* 区民活動支援ルーム検討委員会
    - 13 年 7 月～13 年 9 月
  - \* 区民活動支援ルーム設立準備委員会
    - 13 年 10 月～14 年 3 月
  - \* 区民活動支援ルーム運営委員会
    - 14 年 4 月～15 年 5 月
 市民活動を支援するため、「区民活動支援ルーム」を自主運営  
活動団体が自由に使える印刷機などを備えた作業室や会議室を区役所内に設置し、その運営を担いました。

## パートナーシップ型事業

(市民と行政が一緒に取り組む事業に委員を推薦)

・パートナーシップ型事業の実施方法の検討、ワークショップの運営、委員の推薦等を行いました。

\* 緑陰型公園管理維持運営検討委員会

12年12月～13年3月

\* 地区カルテ調査作成作業委員会

14年4月～5月

\* 新百合ヶ丘地区緑化推進重点地区計画作成検討会

14年6月～11月(隠れ谷公園を整備)

\* 都市計画マスタープラン麻生区構想討委員会

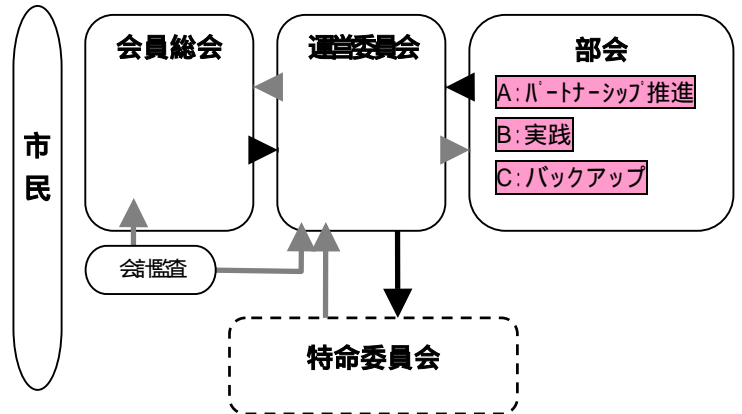
14年6月～15年5月

<その他の参加活動>

\* 新百合ヶ丘駅南口ペDESTリアンデッキの改修に関する懇談会

\* 川崎市中期計画ローリングに関する懇談会

\* 阿部市長との懇談会(タウンミーティング)



## 活動

### (A) パートナーシップ推進部会

- ・まちづくり会議のパートナーシップ型事業を専門に行う部会としてパートナーシップ型事業の実施方法の検討、ワークショップの運営、委員推薦等を行い、委員会開催を支援しました。
- ・パートナーシップ型事業は、市民発意、行政発意の両方があります。

(行政発意)

\* 上麻生隠れ谷公園再整備ワークショップ

## ～中間支援組織機能って“なに”？～

### 【 】 第 期麻生まちづくり市民の会

(平成15年5月～平成18年3月)

「麻生まちづくり会議」の成果を発展的に引き継ぎ、麻生区の様々な活動を連携させていく組織として設立しました。市民自治と公共サービスの多様化に対応するために機能別部会としました。

会長：山崎 優氏(麻生区子ども会連合会会長) 副会長：碓井勝次氏(麻生観光協会副会長) 副会長：北島信夫氏(川崎新都心街づくり財団事務局長)が就任。運営補佐役として専任運営委員2名を新設しました。

組織(右上図)

- ・中間支援組織機能をもつこと
- ・パートナーシップの仕掛けづくり機能をもつこと



←改修前

↓改修後(階段設置)



\* アートセンター検討市民ワークショップ

#### \* 地域貢献施設検討

旧あさひ銀行グランド跡地をどうするかを(財)川崎新都心街づくり財団が“川崎新都心街づくり推進協議会”を設立し検討(14年)。

跡地に建設される施設内容を検討する組織として(仮)新しい市民利用施設市民検討委員会が発足(16年12月15日)。公募15名、団体推薦12名、学識経験者1名。川崎市で初めての試みとして、市民と行政が協働して事務局業務を行う「運営スタッフ」(12名)を市民の会が担当した。

建物検討では市民フォーラム(17年6月18日)を開催し、区民提案を市長に提出。施設運営の為の運営検討部会を設立(検討委員7名、運営スタッフ3名、支援ルーム経験者2名、市民活動経験者1名)し、運営の骨子(案)を作成した。

19年3月まで、施設オープン準備に向けて「運営スタッフ」として事務局を担当。(社)あさお市民活動サポートセンター(開館準備)設立。ここまで市民の会は積極的に支援した。

(市民発意)

#### \* 落書き消し隊立ち上げ

新百合丘駅周辺景観形成協議会が16年3月から実施していた落書き消しを広く麻生区全域に広げたいとの申し入れがあり、協議会と協働した“落書き消し隊”として立ち上げ(17年8月)事務局を担う。

#### \* 新百合ヶ丘南口バスロータリーのバス停位置の改善

バス会社に申し入れ検討をお願いします。

#### \* 「麻生まちづくり学校」(都市計画マスタープランの実現化)の立ち上げ

### (B) 実践部会

・まちづくり会議の福祉専門部会、生活・コミュニティ専門部会、緑・環境専門部会の活動をベースに、麻生区の課題の中から、市民活動を立ち上げました。また、継続性を持った活動としていくため、自ら先頭に立って活動することをめざしました。

#### a) 福祉・コミュニティ小委員会

\* コミュニティベースづくりとしてコミュニティフォーラム(子育てを通じてつくる

地域のつながり)の開催 他

#### b) 緑・環境小委員会

\* 葉積緑地で公園緑地の維持・管理活動を実施し愛護会を立ち上げる(18年4月)

\* 地球温暖化防止のため麻生区CO<sub>2</sub>削減活動の実施 他

#### c) 道路交通小委員会

\* コミュニティバス実現のための協議会

\* ヒヤリ・ハットマップ作成と配布

\* 真光寺長津田線拡幅整備並びに歩道橋併設の要望をまとめ改修工事が実施された。

### (C) バックアップ部会

・麻生区で活躍する団体に団体運営のノウハウを提供するなどにより、市民活動の活性化をめざしました。

\* 活動の場の確保と情報提供に関する調査

\* 市民活動活性化のための学習会等の企画・実行

\* 区民活動支援ルームの運営 他

< 区民まつりへの参加 >

平成15年「第3回麻生ハートフルエイジファッションショー」



平成16年「第4回麻生ハートフルエイジファッションショー」「市民の会の活動状況のパネル展示」

平成17年「市民の会の活動状況のパネル展示」

< 勉強会・発表会 >

・多様な活動や団体等に所属する区民で構成している市民の会の会員が共通の目標を持ち、楽しく活動を行う目的で、会員相互の交流を図るための集いを開催しました。

\* 全体勉強会(15年)会員の共通認識づくり

- \* 全体意見交換会（17年）諸課題を整理
- \* 区民のつどい・全体活動発表会（17年）市民の会会員間の情報共有・交流、会員以外の人への理解
- \* 第2期市民の会説明会（18年）会員の共通認識づくり

<市行事等に参加>

- \* 「第2回～第4回市民自治創造・かわさきフォーラム」への参加（16年～18年）
- \* 「第1回かわさき・まちづくり交流会inあさお」へ参加（16年）

<特命委員会>

- ・市民の会のありかたや運営のための重要事項を検討・実行するために、そのつど委員を設置し進めました。
- \* 課題検討委員会（17年）  
諸課題を整理し、第1期の運営に反映させるための検討を目的に設置
- \* 次期組織検討委員会（17年～18年）  
麻生区の市民自治を推進する組織としてのあり方（組織や活動の仕組み）を検討。市民の会の将来的な位置づけとしてまず協議会組織とし、最終目標は市民による自主的な組織（NPO法人）をめざす事を運営委員会で承認した。事務局機能は運営組織の外部におき、市民と行政の協力体制でスタートすることとした。
- \* 第1期市民の会準備委員会（18年） 他

<その他>

- 1) 市民の会の活動から生まれ“独立”した活動  
麻生ハートフルエイジファッションショー：17年度から独立。16年に川崎市制80周年記念表彰で「奨励賞」を受賞  
麻生区コミュニティバス協議会：16年11月に独立  
区民活動支援ルーム運営委員会：18年度から独立
- 2) 各種会議への委員派遣  
・川崎市や麻生区等で設置された委員会等へ市民の会より委員を推薦し市内の多様な活動

と連携してきました。

- \* 都市計画マスタープラン麻生区構想検討委員会
- \* 環境パートナーシップかわさき
- \* (仮)リサイクルパークあさおゴミ焼却方式の選定に関する市民団体等と行政の検討会
- \* (仮)リサイクルパークあさお建設事業に関するゴミ焼却方式の選定中間とりまとめについての話し合い
- \* アートセンター整備推進協議会
- \* 新百合ヶ丘駅周辺地区基本構想策定検討委員会
- \* ふるさと麻生八景選定部会
- \* (仮)新しい市民利用施設市民検討委員会（市民側事務局）
- \* 麻生区ホームページリニューアル事業に伴う企画提案評価委員会
- \* 麻生区地域福祉計画推進委員会
- \* 川崎市多摩川プラン策定市民会議
- \* 川崎地域県民討論交流集会運営実行委員会
- \* 区民会議 / 区政推進会議
- \* 市民自治創造・かわさきフォーラム実行委員会
- \* かわさき・まちづくり・市民交流会準備会
- \* あさお区民まつり実行委員会

～発展をめざして～

【 】第1期麻生まちづくり市民の会

（平成18年5月～平成21年3月）

「麻生まちづくり会議」や「第1期市民の会」などの成果を引き継ぎ発展させるため、第1期の継続という位置づけで「市民が主体的に住み良いまちづくりを進めていく活動の支援を行うこと」を目的としました。

会 長：碓井勝次氏

副会長：竹市八郎氏 金光秀尚氏

副会長：曾我恵美子氏

専任運営委員の担当を明確化（調整・企画審査・広報）しました。



以上のように、この9年間に「麻生まちづくり会議」「麻生まちづくり市民の会」はさまざまな企画・活動を実施してきました。その過程において出された課題に対しても、真剣に検討・解決してきたことにより、それぞれの企画がそれなりの成果を納めることが出来ました。

また、15年3月～19年4月までの長い年月を“裏方”として活動してきた結果、“市民の会の念願”ともいえる「市民活動支援施設」を開館させるまでに至ったことは、非常に大きな喜びであると同時に誇りでもありますが、その運営組織に参加できなかったことは、我々にとって唯一の残念かつ心残りの結果であるといえます。行政からは、『行政の普通財産の貸付団体として市民の会からはなれて別の組織が作られ、平成20年から運営組織として「NPO法人あさお市民活動サポートセンター」になりました。このことから市民の会が担ってきた市民活動の拠り所の機能の見直しを図る困難な作業を余儀なくされました。』とのことでした。

現在、「麻生まちづくり市民の会」は“第1期最終年の活動と報告のまとめ”と“第2期に向けての準備”を進めています。

引き続き、ご協力をよろしくお願い申し上げます。

9年間の活動は多岐にわたり、全ての活動を記載することはできなかったことをお詫びいたします。

←落書き消し隊の活動



←自生地に咲き誇るヤマユリ

↓まちづくり学校現地見学



## 麻生まちづくり市民の会 最近の活動から

### 市民活動支援部会

#### 講座企画運営小委員会

～団体のニーズにピッタリ！講座『助成金(得)情報がいっぱい！』開催～

今年度講座「市民活動応援します」2回コース開催において、現在活動団体が抱えている課題についてアンケートを取りました。多くの課題が寄せられた中で、助成金についての講座開催の要望が寄せられました。そこで、追加講座『助成金(得)情報がいっぱい！』の開催を12月6日に決定。約2ヶ月かけて、21年度の各種助成金情報の収集と精査、資料作成を行いました。

当日は30団体32名が参加。講師の横浜市市民活動支援センター事務局長 川崎あやさんによる豊富な体験に基づいた具体的な情報やアドバイスがとてもわかりやすいと参加者には大好評でした。また、あさお生きごみ隊、かよおう会、木こりの会からは、助成金を受けた体験報告がありました。

講座開催時点では未定が多かった21年度の最新情報の収集と資料を作成し、参加団体へアフターケアの情報提供を1月中に行いました。

## まちづくり推進部会

### 麻生まちづくり学校

12月20日 第3回講座 都心の高層ビルの免震構造と目黒区防災センターを見学  
1月24日 第4回講座 「防災ボランティア・あなたは何かができますか？」開催

### 地域まちづくり支援小委員会

～自主防災組織の活動に積極的に参加しよう～

地域まちづくり支援小委員会では、いくつかの地区への防災ツール紹介に引き続き、区内の自主的な防災活動の実状を知るために、昨年11月末に「自主防災組織連絡協議会」のご協力を得て117団体を対象にして、アンケート調査を実施し、活動状態を伺いました。

自主防災組織とは、地域社会の中で防災という共通の目的をもって結成されており、早くから組織化して積極的に活動している組織、また最近結成した組織、その規模においても10世帯の組織から約3000世帯の組織など多種の形態にわたっています。

また、地形的にも比較的坂道が多い地区、急増しつつある高齢者の多い地区などにおいて、その組織活動も異なります。

自然現象に対する防災とは、災害発生時にいかにして減災に結びつけるかを意味し、これはひとえに防災活動の強化に頼る以外にありません。区内の防災活動実態を良く認識して、各地区の居住環境の安全への改善を図らねばなりません。

世帯数約69千世帯、人口約165千人の麻生区の防災活動は地域における共助（隣近所の助け合い）が重要です。各戸の安全対策（自助）に併行して、自主防災組織の活動に積極的に参加し非常時に備えましょう。

### あさお落書き消し隊小委員会

11月15日、多数の参加者を得て新百合ヶ丘駅周辺の落書き消しを行いました。

### ヤマユリ植栽普及小委員会

～ヤマユリ再生への明かりが見えてきました！！～

かつて麻生区の野山に咲き誇っていた自生のヤマユリの復活・再生を願って平成14年度からスタートしたヤマユリの植栽普及委員会活動は、途中休止するなどの紆余曲折もありましたが、地域のボランティアのみなさまのご協力とご理解を得て、ようやく今後の活動の道筋が見えてきました。

とりわけ、平成19年度秋の再スタートから、里山・緑地への球根植え・種まき、区内ヤマユリマップづくり、鉢植え講習会の開催、さらに、あさお区民まつりへの出店などの活動を進めてきました。少しずつですが、地域のみなさまのヤマユリの保全活動への共感を得ることができつつあります。植栽地は、化粧面谷公園、籠口ノ池公園、岡上梨子ノ木緑地、授産学園緑地、市民健康の森、下麻生まつのき緑地、さらに万福寺おやしろ公園など、その数と広さも増えてきました。しかし、自生地の復活と呼ぶにはまだほど遠く、今後多くの努力が必要でしょう。

一方、地域のみなさんに、庭先でもヤマユリを育て、ヤマユリへの関心と理解を深めていただくための鉢植え講習会は、昨年12月の実施で第3回を数えました。応募者は、定員30名の5倍近くもあり、年々、地域のみなさんの関心と反響の広がり、委員一同感激し、今後の活動に意を強くいたしております。

ヤマユリは、デリケートな植物です。5年、10年先を考えた植栽普及活動が求められます。“ヤマユリと言えば川崎・麻生の地”と呼ばれる地域となることを願っております。